

学校通信 令和3年 7月 7日 No. 5

# 鼓ヶ浦 (つづみがうら)

鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校

TEL:386-5852 FAX:386-4663

http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/jhtsudumigaura/

## めざす学校像

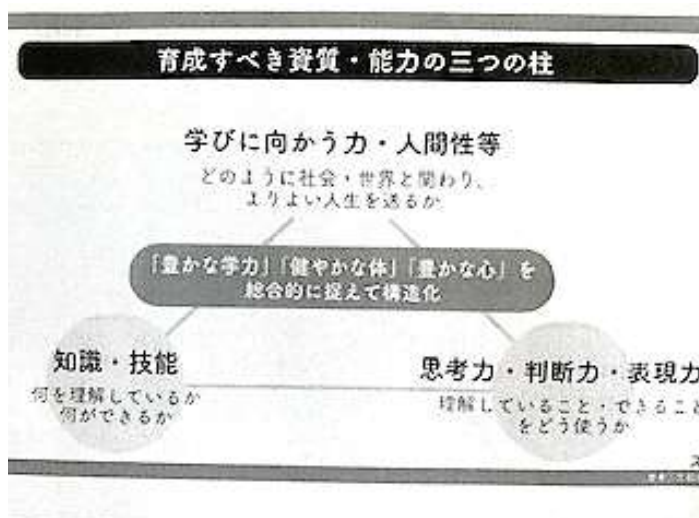
「来てよかった、  
明日も来たい」  
と思う学校

## 新学習指導要領のポイント整理

### ～育成すべき資質・能力の三つの柱～

4月より新学習指導要領が完全実施となっています。「学習指導要領」とは、全国どこの学校でも一定の教育水準が保てるよう、文部科学省が定めている教育課程（カリキュラム）の基準です。およそ10年に一度改訂され、これを基に教科書や時間割が作られます。

今回の改訂では、生徒が学校教育の中で身につけるべき力を「個別の知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」の3つとしています。



#### <個別の知識・技能>

「何を知っているか、何ができるか」という部分です。各教科で学ぶべき内容について体系的に理解できていて、応用できる形で頭に入っていることが重視されます。技術や体育などスキルを身につける教科についても各自が熟達することが目標になります。

#### <思考力・判断力・表現力等>

現代社会での「生きる力」の中でも特に重視されている問題解決能力に関する力といえます。問題を見つけた時に、論理的に考えて解決まで導ける力や、仲間と協力しながら問題に取り組むための表現力などの獲得を目標とします。各教科の知識や技能を問題解決に向け、有効に使えることも大切になります。

#### <学びに向かう力・人間性等>

教科教育にとらわれない、より広い意味での人間教育についての目標です。多様性を理解して仲間と協力する力や、自分の感情をコントロールする力、優しさや思いやりなど豊かな人間性のベースとなる資質や力を伸ばすことに重点が置かれます。また、そのために学習に主体的な態度を持つことが重要視される点は忘れてはいけません。

(裏面に続く)

## 新学習指導要領による評価

基本的には学習指導要領の3つの柱である「個別の知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」に対応した形で評価します。学習状況評価の観点とは、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点となります。「学びに向かう力・人間性」が「主体的に学習に取り組む態度」となっているのは、人間性については教科教育の中では評価対象とするのが難しいため、学習に対する主体性を切り出して学習状況評価の観点とすることになっています。

### <知識・技能>

「知識・技能」の観点では、各教科で身につけるべきとされている知識やスキルについて、十分に習得しているかが評価の対象となります。ただし、1問1答形式で測るような単純な知識だけでなく、他の教科の知識とも結びつけて活用できるような概念的な知識も重視されます。

そのため、ペーパーテストにおいても、単なる知識を問う問題に加えて、深い理解を試す文章題を使うなど、応用的な部分も含まれることになるでしょう。また、教科によっては実験などによる評価を行うなど教科特性に合わせた適切な評価も重視されることになります。

### <思考力・判断力・表現力>

「思考力・判断力・表現力」の観点では、「知識・技能」に比べてより広い評価をすることになります。授業の中で課題や問題に向き合って解決していく能力や、仲間と協力しながら問題解決の糸口を見つけていく力など幅広い能力が評価対象になります。また、自分の思いを表現していく能力も評価されます。

そのため、具体的な評価方法はペーパーテストに限りません。グループでの話し合いや発表、レポートなど、各教科の特性に合わせた評価方法が工夫されます。

### <主体的に学習に取り組む態度>

「主体的に学習に取り組む態度」はこれまでの「関心・意欲・態度」の評価観点に対応するものですが、評価内容はこれまでとは多少違ったものになります。「関心・意欲・態度」においては、ノートの取り方や拳手の回数など、生徒の性格による部分が判断材料の一つになっていましたが、「主体的に学習に取り組む態度」においては、さらに深い部分を見ていくことになります。

各教科の内容を理解するために、生徒が「いかに学習を調整して、知識を習得するために試行錯誤しているか」という部分を評価していきます。

学力向上ということでは、学習の要である毎日の授業における自分の学習状況を振り返ることが大切です。保護者会でお渡しする通知表をよく見て、1学期における自分の学習の達成状況を把握しておくことが大切です。

自分を知ることこそが成長の第一歩となります。何ができて何ができていないのか、これを知ることが成長につながるのです。